

日本フルオロケミカルプロダクト協議会(FCJ)主催

第1回 FCJ PFAS ウェビナー

PFAS の最新規制動向

日時: 2022年 **4**月 **20**日(水)

13:30 開始、14:55 終了(13:15 より入室開始)

オンライン開催(Zoom)

申込締切: 2022年4月8日

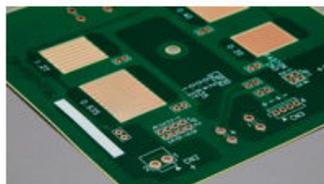
PFAS(有機フッ素化合物)は、自動車部品・電子部品等から身近な衣類や医薬品関係など様々な産業で広く使用されています。しかしながら、一部のPFASでは、例えばPFOSやPFOAのように、難分解性、生物蓄積性および毒性が認められたことから、ストックホルム条約の規制物質に登録され、化審法の第一種特定化学物質に指定されているものがあります。そのような一部のPFASの安全性について懸念があることが発端となり欧州または米国では、PFAS全体を視野に規制を実施する議論が進展しております。PFASは産業界に広く使用されておりますが、製品にPFASが使用されていること自体が認識されていない場合もあり、このような状況でPFAS規制が加速しますと、知らない間に現在調達している製品が使用できなくなり、最悪の場合はビジネスが継続できなくなる可能性があります。

その為、日本国内だけでなく、欧米の規制・法制化動向をタイムリーに入手し、適切な情報を共有することは産業界にとって重要だと考えておりPFAS規制動向のウェビナーを開催することにいたしました。本ウェビナーではPFASの使用されている代表的な用途紹介から、PFASの定義、欧州を中心とした最新の法規性情報をご紹介しますので、関係業界団体の皆さんには是非ご参加いただけますように、ご案内申し上げます。

【用途例】



通信ケーブル



電子基板



半導体キャリア部品

➤ プログラム

① PFAS とは(PFAS 定義・用途)

講師:AGC 株式会社

② 欧州の PFAS 規制動向

講師:ダイキン工業株式会社

③ 欧州以外の PFAS 規制動向

講師:三井・ケマーズフロロプロダクツ株式会社

➤ 申込方法

以下の URL にアクセスいただき、申込専用フォームに必要事項を記載ください。

https://www2.daikinchemicals.com/fcj_webinar_entry_20220420

申込締切:2022 年 4 月 8 日

注意事項:

参加者は最大 1,000 名程度となります。1,000 人を超えるお申込みがあった場合は、先着順とさせていただきます。

ただし、同一業界団体様/同一会社様からの申し込みが多数の場合、別途調整をさせていただく場合がございます。

当日もチャットでの質問などをお受けする予定ではありますが、時間の関係上で事前質問も含めて、すべての質問に対応できない場合がありますので、あらかじめご了承くださいますようお願い申し上げます。

問合せ先 :

日本フルオロケミカルプロダクト協議会(FCJ) ウェビナー事務局

担当 小池(ダイキン工業株式会社)

E-mail tsuneaki.koike@daikin.co.jp

(参考1) 欧州におけるPFAS規制にむけた手続きの現状

- 半導体製造装置、自動車部品など、様々な用途に幅広く使用されているフッ素化合物となるPFAS※の規制の意図表明が欧州5か国から提案され、欧州で具体化。2021～2022年頃にREACH規制案の提出が予定されている。

※PFASは炭素フッ素結合をもつ化合物の総称であり全般をさす呼称（詳細次頁）。その全てに使用制限がかかるということは、これまで議論されてきたPFOA（ペルフルオロオクタン酸）のような一物質に関する議論とは全く異なるマグニチュードの問題と認識すべき。撥水性、耐熱、耐火等の特性を持ち、幅広い製品の用途に使用(次頁)

※REACH規制とは、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規則。

- 素材メーカーのみならず、最終製品メーカーも含め、サプライチェーンを通じて、日本企業への影響は広範にわたる可能性がある。

【概要】

- ✓ 規制対象は、必須用途（エッセンシャルユース）を除いたすべてのPFAS及びこれを使用した製品について、使用制限。
- ✓ PFASの定義は、ほぼ全ての有機フッ素化合物とされている。
- ✓ 提案国は、オランダ、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、スウェーデンの5か国。
- ✓ 現在、Call for Evidence（情報収集）を実施中（当初予定は本年7月迄の予定）であり、その間、例外としてのエッセンシャルユースに関する議論が進められている。規制案の提案後、2025年規制実行を目指す。

現在、欧州において、適用除外に関する議論が進められており、**産業界・企業として積極的なロビイングが必要。**

【想定される規制スケジュール】

規制案提案後パブコメ開始（半年間）

現在、欧州のステークホルダーにて規制案を議論中

5か国による
Call for Evidence
2020年5月～7月

5か国から規制案を提案
2022年7月提案予定
→2023年1月に延期

欧州化学物質庁
・リスク評価委員会
・社会経済分析委員会
2023～24年

欧州委員会
2024～25年

欧州議会・理事会
2025年

(参考2) PFASとは

- 有機フッ素化合物であるPFAS (per-and polyfluoroalkyl substances) は、炭素フッ素結合を持つ有機化合物の総称。
- 他の材料には見られない様々な性質（耐熱性、耐薬品性、難燃性、撥水性、潤滑性等）を有し、半導体製造装置、自動車部品、各種機械器具、携帯電話部品から医療、厨房用品まで幅広い用途に使用されている。

Non-polymer		Polymer	
業界/用途	使用例	業界/用途	使用例
航空	油圧作動用油の添加剤	自動車	シール材、低摩擦ベアリング
建設	塗料の添加剤	航空	はんだスリーブ(絶縁材)
電気電子機器	難燃剤	ケーブル/ワイヤ	耐熱・耐環境用被覆材
消火用途	水性フィルム形成フォーム (AFFF)	建設	建築資材塗装用塗料の添加剤
家庭用	床の清掃ポリッシング液中界面活性剤	電気電子機器	はんだスリーブ(絶縁材)
金属メッキ	六価クロムメッキの添加剤	太陽光発電	パネル保護用フィルム
石油/鉱業	採掘時のSimulator中界面活性剤	消火用途	耐火防護服材料
重合工程	(乳化) 重合加工助剤	家庭用	焦げ付き防止コーティング(フライパンなど)
冷凍空調	冷媒(PFC,HFC,HFO,HFEなど)	医療	移植用材料(血管など)、手術用ガウン
		半導体	製造装置内部の配管、ポンプなど接液材
		繊維	撥水、撥油繊維